

生活衛生センター だより



2019 (令和元) 年 7 月 1 日 No.30

名古屋市生活衛生センター

〒464-0071

名古屋市千種区若水一丁目 2-33

電話 721-0191 FAX 721-0193

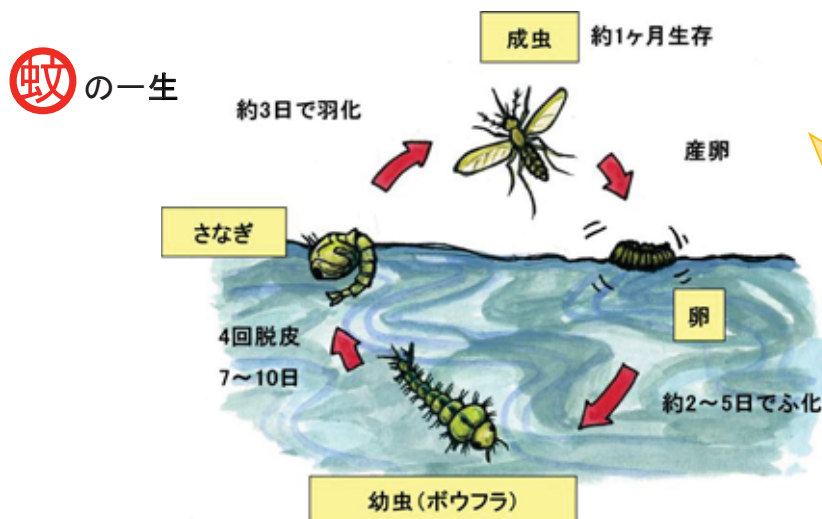
『生活衛生センターだより』はインターネットではカラーでご覧いただけます。名古屋市公式ウェブサイト <http://www.city.nagoya.jp/> から **生活衛生センター** で検索してください。

ボウフラ 蚊の防除は幼虫から!

6・7月は蚊の防除運動期間です

名古屋市では、6・7月を蚊の防除運動期間と定めて、蚊を発生させない環境づくりの啓発活動を行っています。

蚊は、刺されるとかゆくなり不快な思いをするだけでなく、いろいろな感染症を媒介する害虫です。蚊を発生させないためには幼虫（ボウフラ）対策をしっかりと行うことが重要です。蚊に刺されないように気をつけましょう。



蚊は産卵から2週間くらいで成虫になり、人を刺しに来るようになります。

蚊を発生させないために

蚊の中でも、デング熱等を媒介するヒトスジシマカ（いわゆるヤブカ）の幼虫は、空き缶や植木鉢の受け皿等のちょっとした水たまりに発生します。成虫になると駆除が難しくなるため、産卵をさせない環境づくり、また、幼虫時の防除が効果的です。



ヒトスジシマカ（成虫）

蚊が発生しやすい場所

〈ブロックの穴〉



〈空き缶〉



〈植木鉢の受け皿〉



不要なものを整理して、定期的に管理することで水がたまらないように気をつけましょう。



〈シートの水たまり〉



〈屋外のバケツ等の容器〉



〈排水マス・雨水マス〉

家の周りの蚊の発生源をなくして
蚊のいない住みよい環境を作りましょう！

蚊に刺されないために

- ・蚊が侵入しないように玄関等の出入りは素早く行いましょう。
- ・網戸のない窓は開け放しをしないようにしましょう。
- ・外出の際は肌の露出の少ない服装を心がけましょう。

必要に応じて虫除け剤を使うことも効果的です。
(使用上の注意を必ず守りましょう。)



蚊が媒介する主な感染症 病原体を保有する蚊に刺されることで感染します。

デング熱

デングウイルスを保有するネッタイシマカやヒトスジシマカなどが媒介。熱帯・亜熱帯地方（特に東南アジア、南アジア、南米）の広い地域で多くの患者が発生している。2014年に約70年ぶりの国内感染が起こった。

感染しておおむね3～7日後に発症する。突然の発熱、頭痛の後、眼窩痛、筋肉痛、関節痛が主な症状で、解熱する前後に発疹が出現する。症状は1週間程度で消失するが、まれに重症化することがある。

チクングニア熱

チクングニアウイルスを保有するネッタイシマカやヒトスジシマカなどが媒介。アフリカ、南アジア、東南アジアで流行がみられる。これまでに、国内での感染はない。

感染しておおむね3～7日後に発症する。突然の発熱と関節痛が現れ、発疹も多くみられる。デング熱と症状は似ているが、チクングニア熱の方が、関節痛が強いのが特徴である。

ジカウイルス感染症

ジカウイルスを保有するネッタイシマカやヒトスジシマカなどが媒介。近年、中南米及び東南アジアで多くの患者が発生している。

感染しておおむね2～7日後に発症する。軽度の発熱（38.5℃を超えることはまれ）、発疹、関節痛の症状がみられることが多い。感染しても症状が現れない人が8割程度いるといわれている。デング熱と比べ、症状は軽いが、妊婦が感染すると胎児にも感染し、小頭症等の先天性障害（先天性ジカウイルス感染症）を起こす可能性があるといわれている。

その他

日本脳炎、マラリア、ウエストナイル熱等の感染症を媒介する。



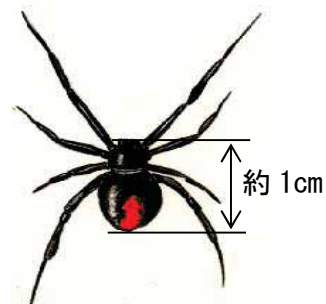
セアカゴケグモ



名古屋市で行う啓発やニュース・記事などで、セアカゴケグモの名前を一度は耳にしたことがあるでしょうか。外来性の毒グモで、今や名古屋市内の全区で発見されており、夏ごろから急激に増え始め、12月頃まで活動します。これから野外で活動する際には、セアカゴケグモに咬まれないように注意しましょう。

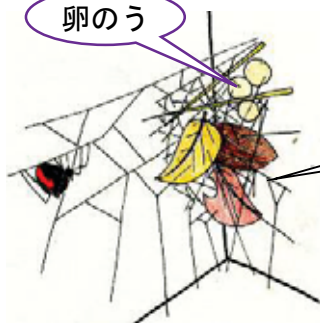
～毒をもつメス(成体)の特徴～

- ・大きさは約1 cm (脚を含まず)
- ・腹部が球形
- ・色は黒地に赤～オレンジの模様
- ・腹側は砂時計のような模様
- ・日当たりの良い場所にある人工構造物の隙間や内部に巣を作る
- ・卵のう(卵が入った袋)を守るように潜んでいることが多い
- ・攻撃性は低く、自分からヒトを襲ったりはしない



～巣の特徴～

卵のう

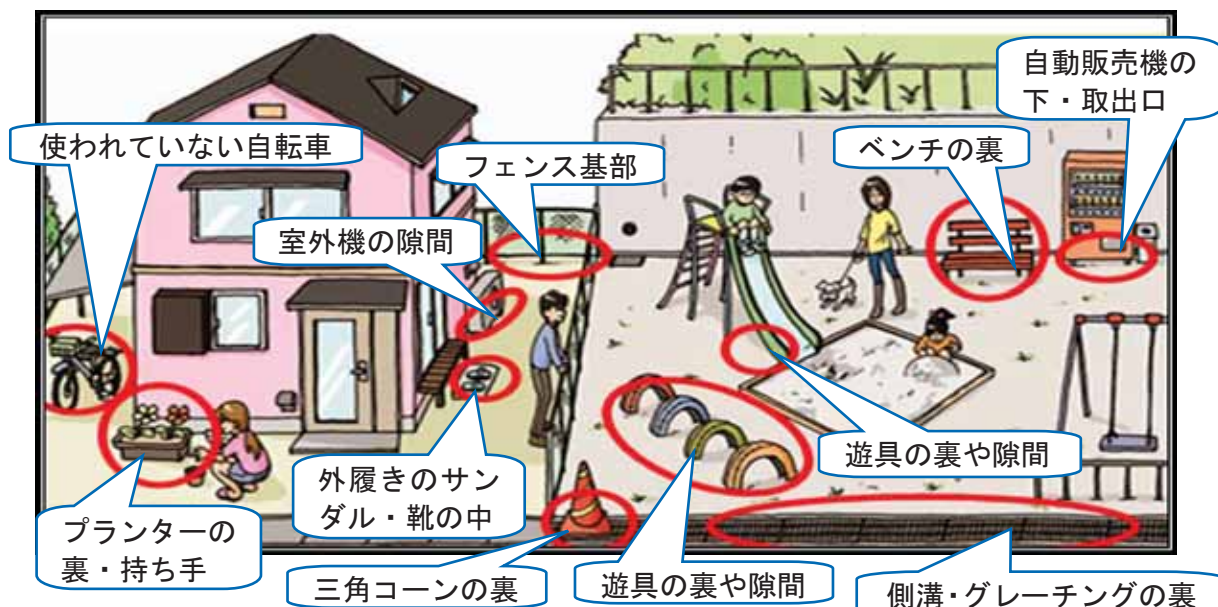


セアカゴケグモの巣は決まった形が無く、クモの糸で落ち葉や鳥の羽根、虫の死がいなどを絡めているものがよく見られます

公園などでよく見
つかる円形の巣で
はありません



セアカゴケグモの生息場所(こんな所に気をつけて！)



セアカゴケグモに咬まれないために

- ・セアカゴケグモを見つけても、絶対に素手で触らない。
- ・屋外の作業では軍手などの手袋を使用する。
- ・屋外に置いてあるものを触るときには、セアカゴケグモがいないか確認する。

セアカゴケグモや巣を見つけたら

★駆除方法

(軍手などの厚手の手袋をはめて、咬まれないように注意しながら実施してください。)

- ① 巣全体に殺虫スプレーを吹きかけ、クモを巣から追い出す。
- ② クモを踏みつぶす、または殺虫スプレーをよくかけて駆除する。
- ③ 割りばしやピンセットで巣を取り除く。
- ④ 卵のうをしっかりと踏みつぶした後、念のため殺虫スプレーをかけてから清掃する。

セアカゴケグモに咬まれてしまったら

セアカゴケグモに咬まれると、針に刺されたような痛みを感じ、その後、咬まれた箇所が腫れたり、発汗や吐き気を引き起こしたりすることがあります。

咬まれた箇所を流水で洗って冷やし、すみやかに医療機関を受診しましょう。その際、咬んだクモを殺して持参すると、適切な治療につながります。

なお、セアカゴケグモは特定外来生物に指定されていますので、生きたまま移動させることは法律で禁止されています。病院などには、必ず殺してから持参しましょう。

7月から9月までに開催する行事のご案内

生活衛生セミナー

7月26日(金)

「ハチに刺されないために」

山内 博美 氏 (日本衛生動物学会会員)

8月30日(金)

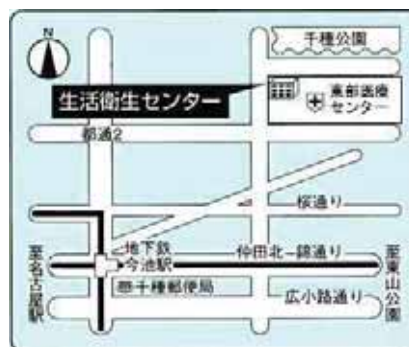
「知られざるケムシの世界」

水野 利彦 氏 (財団法人名和昆虫博物館研究員)

9月27日(金)

「感染症の運び屋「蚊」から身を守れ」

福田 由美 氏 (名古屋検疫所検疫衛生課看護師)



時間：午後2時～3時30分

場所：生活衛生センター

電話：052-721-0191

FAX：052-721-0193

お申し込みは電話(721-0191)またはFAX(721-0193)にてお願いします。

おじゃま虫キャラバン日記



平成が終わり、『令和』という元号となって早2ヶ月ですが、みなさんには新しい元号になったことで変化を感じさせる出来事はあったでしょうか。わたしたちが実施するおじゃま虫キャラバン(衛生害虫出張講座)では、実際の生きた虫を扱っていますので、虫を通して四季の変化を感じることはありますが、令和になっても変わりなく、小学校・保育園などで蚊やゴキブリなどの衛生害虫の啓発に勤しんでいる毎日です。

ところで、令和という元号は、『万葉集』という日本最古の歌集を典拠にしたというのは広く知られていますが、その万葉集の歌の中に、虫を題材にしたものがあることはご存知でしょうか。コオロギやセミなどの鳴く虫に季節や風情を感じて詠った歌もあれば、蚊に関する歌もあります。この蚊に関する歌では、『蚊火』(蚊遣り火のことで蚊を追い払うための火または煙)という単語を使っており、この単語からも、蚊が万葉集の時代から人々の生活を脅かす存在だったということがうかがえます。とは言え、蚊取り線香が夏の風物詩の一つに挙げられるように、蚊は千年以上も昔から日本の生活に馴染みのある虫で、遠いご先祖様も蚊に困らされたのだらうなあとと思えば、これからの季節、蚊に出くわした時の不快感や蚊に刺された時の痒さも少しは和らぐのではないのでしょうか。(「そんなわけない!」という声が聞こえてきそうですが・・・(笑))